

## 病害虫発生予察情報予報第 11 号

佐賀県農業技術防除センター

### I. 予報の概要および各作物の特記事項

| 作物名   | 病害虫名 <sup>注1)</sup> |     | 2月の予想発生量 <sup>注2)</sup> |     | 病害虫防除のてびきの記載頁 <sup>注3)</sup> | 予報対象の病害虫<br>(抜粋)   |
|---|---------------------|-----|-------------------------|-----|------------------------------|--|
|   |                     |     | 平年比                     | 前年比 |                              |  |
| タマネギ  | べと病                 | 早生  | 並                       | 並   | 266~268                      | <br>べと病<br>越年罹病株  |
|   |                     | 中晩生 | 並                       | 並   |                              |  |
|   | ポトリチス葉枯症            |     | 並                       | 並   | 269                          |  |
|   | 白色疫病                |     | 並                       | 並   | 270~271                      |  |
|   | ネギアザミウマ             |     | やや少                     | 並   | 276                          |  |
| <b>1. べと病</b><br>春期の伝染拡大を抑えるため、伝染源となる越年罹病株の抜取りが重要である。<br>そのため、各ほ場で発生状況を確認し、発生が認められた場合には速やかに抜取りを行う。また、2月からの定期的な薬剤防除を確実に実施する。(平成 30 年 1 月 25 日付け病害虫対策資料第 13 号参照)。   |                     |     |                         |     |                              |  |
| イチゴ<br>(本圃)   | ハダニ類                |     | やや多                     | 並   | 214~215                      | <br>ハダニ類による被害   |
|   | うどんこ病               |     | やや少                     | 並   | 204~206                      |  |
|   | 灰色かび病               |     | 並                       | 並   | 206~207                      |  |
|   | アブラムシ類              |     | やや多                     | 少   | 219~220                      |  |
| <b>1. ハダニ類</b><br>前月に比べ発生圃場、発生株率ともに増加している。発生圃場では、薬剤がかかりやすくなるよう不要な下位葉等を除去するとともに、系統 (IRAC コード) が異なる薬剤 (防除のてびき P478 参照) を組み合わせ 5~7 日間隔で防除を実施する。<br>天敵を利用している圃場でハダニ類が急増した場合は利用を中止し、殺ダニ剤による防除を行う。                        |                     |     |                         |     |                              |  |
| キュウリ  | べと病                 |     | 並                       | 並   | 184~185                      | <br>ミナミキイロアザミウマ |
|   | うどんこ病               |     | 並                       | 並   | 182~183                      |  |
|   | 褐斑病                 |     | 並                       | 並   | 187~188                      |  |
|   | アザミウマ類              |     | 並                       | やや多 | 196                          |  |
|   | コナジラミ類              |     | 並                       | 並   | 195~196                      |  |
| <b>1. ミナミキイロアザミウマ (黄化えそ病)、タバココナジラミ (退緑黄化病)</b><br>春先の増加を防ぐため冬季の防除を徹底する。また、ウイルス病の罹病株を認めた場合は、早急に除去し処分するとともに、媒介虫の薬剤防除を徹底する。<br>なお、植え替え時にはこれら媒介虫 (成幼虫) を確実に死滅させるため、キルパーを用いて古株を完全に枯死させると同時に、2 週間程度の蒸し込み処理 (キルパー処理含) を行う。 |                     |     |                         |     |                              |  |

| 作物名  | 病虫害名 <sup>注1)</sup>  | 2月の予想発生量 <sup>注2)</sup> |     | 病虫害防除のてびきの記載頁 <sup>注3)</sup> | 予報対象の病虫害<br>(抜粋)   |
|--|--|-------------------------|-----|------------------------------|--|
|  |  | 平年比                     | 前年比 |                              |  |
| トマト  | 葉かび病   | やや多                     | 並   | 231~232                      |  葉かび病   |
|  | 灰色かび病  | 並                       | やや多 | 226~227                      |  |
|  | コナジラミ類   | やや少                     | やや少 | 157~159<br>234~236           |  |
|  | 1. 葉かび病、灰色かび病<br>発生を認めていない圃場においても、こまめな換気とともに、循環扇や加温機を活用し、施設内および葉面の結露を防ぐ。特に、夜間の気温が高いと予想されるときには、加温機の送風機能や循環扇を利用し夜間送風を行う。 |                         |     |                              |  |
| ナス   | すすかび病  | やや少                     | 並   | 235~236                      |  菌核病    |
|  | 灰色かび病  | 並                       | 多   | 234~235                      |  |
|  | 菌核病  | 多                       | 多   | 237                          |  |
|  | アザミウマ類   | やや少                     | 並   | 160~165<br>247~248           |  |
|  | コナジラミ類   | やや少                     | 並   | 157~159<br>248~249           |  |
| 1. 灰色かび病、菌核病<br>一部圃場で発生が認められる。発病部位は早めに除去し、発生初期の防除を徹底する。発生を認めていない圃場においても、こまめな換気とともに、循環扇や加温機を活用し、施設内および葉面の結露を防ぐ。特に、夜間の気温が高いと予想されるときには、加温機の送風機能や循環扇を利用し夜間送風を行う。 |  |                         |     |                              |  |
| キウ   | 白さび病   | 並                       | やや多 | 390~391                      |  白さび病 |
|  | アザミウマ類   | 並                       | 並   | 394~395                      |  |
|  | アブラムシ類   | 並                       | 並   | 397~398                      |  |
|  | ハダニ類   | 並                       | 並   | 396                          |  |
|  | ハモグリバエ類  | 並                       | 並   | 399                          |  |
| 1. 白さび病<br>発病後の防除は効果が劣るため、薬剤の定期的な散布と硫黄粒剤のくん煙処理を組み合わせる。   |  |                         |     |                              |  |

注1) 病虫害名に網掛けをしたものについては、予報の根拠とした内容を記載しています。

注2) 予想発生量については、平年および前年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病虫害について「平年および前年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注3) 防除対策については「[佐賀県病虫害防除のてびき](#)」も参照してください。

## II. 予報の内容・根拠等について

### 予報内容（来月の予想発生量）

- 平年（過去10年間）及び前年と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。  
 なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

### 予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。  
 ○発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、(－)：少発生、(－～±)：やや少発生、(±)：並発生、(±～＋)：やや多発生、(＋)：多発生として示しています。

### 防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください（1ページの予報の概要にリンク有り）。

### 写真

- 1ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。  
 4ページ目以降：巡回調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

### 2月の気象条件

- 病害虫の発生に関与する2月の気象条件については、福岡管区気象台発表の3ヶ月予報（平成30年1月24日）を基に、「気温：平年より低い」、「降水量：平年並」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%)及び病害虫の発生に関与する気象条件

| 要素  | 3ヶ月予報における2月の気象予報（確率予報%） |                  |        | 病害虫の発生に関与する気象条件（平年比） |
|-----|-------------------------|------------------|--------|----------------------|
|     | 低い(少ない)                 | 平年並<br>(佐賀市の平年値) | 高い(多い) |                      |
| 気温  | 50                      | 30 (6.7℃)        | 20     | 低                    |
| 降水量 | 30                      | 40 (77.5 mm)     | 30     | 並                    |

### Ⅲ. 2月の予報

## タマネギ

農技防調査：20 圃場  
 (早生 10 圃場、中晩生 10 圃場)  
 調査日：1 月 18～22 日



巡回調査圃場の様子

#### 1. ベと病 (早生)

- 1) 予報の内容  
 発生量：平年並 (前年並)
- 2) 予報の根拠
  - (1) 発生の現況
    - ① 定期調査 (図 1 参照)  
 発生株率：0% (平年0.003%、前年0%)  
 平年比：並 (±) 前年比：並 (±)
    - ② 定期調査以外の現地ほ場  
 1月23日にマルチ栽培早生品種の複数の圃場で越冬罹病株の発生を認めた。(±～+)
  - (2) 2月の気象予報  
 降水量は平年並で、並発生の条件 (±)
- 3) 防除上注意すべき事項  
 (1) 特記事項を参照。

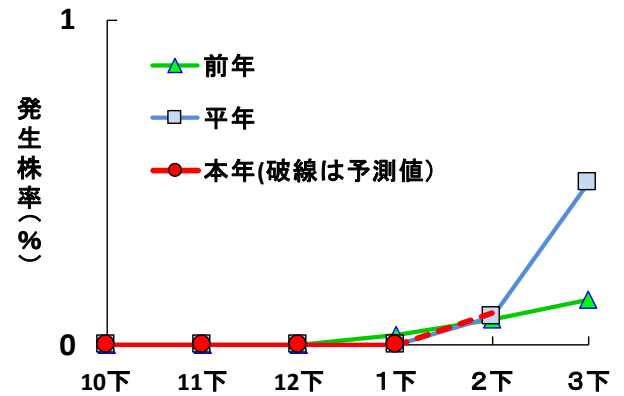


図1 早生タマネギでのべと病の発生推移

#### 2. ベと病 (中晩生)

- 1) 予報の内容  
 発生量：平年並 (前年並)
- 2) 予報の根拠
  - (1) 発生の現況
    - ① 定期調査 (図 1 参照)  
 発生株率：0% (平年0%、前年0%)  
 平年比：並 (±) 前年比：並 (±)
    - ② 圃場の菌密度  
 近年、本病の発生が多い傾向が続いているため、圃場の菌密度は平年並～やや高いと推察される。(±～+)
  - (3) 2月の気象予報  
 降水量は平年並で、並発生の条件 (±)
- 3) 防除上注意すべき事項  
 (1) 特記事項を参照。

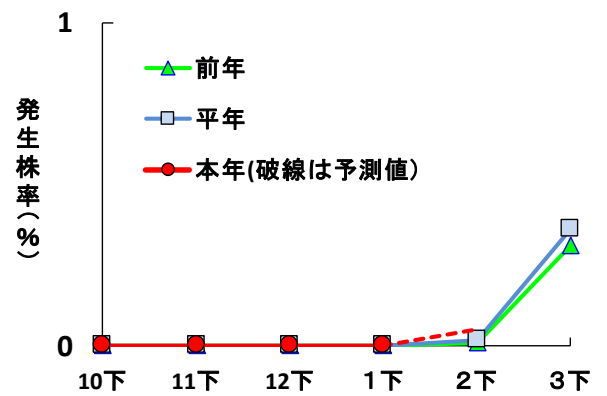


図1 中晩生タマネギでのべと病の発生推移

#### 3. ネギアザミウマ

- 1) 予報の内容  
 発生量：平年よりやや少ない (前年並)
- 2) 予報の根拠
  - (1) 発生の現況
    - ① 定期調査 (図1参照)  
 発生株率：0% (平年1.4%、前年0%)  
 平年比：やや少 (一～±) 前年比：並 (±)

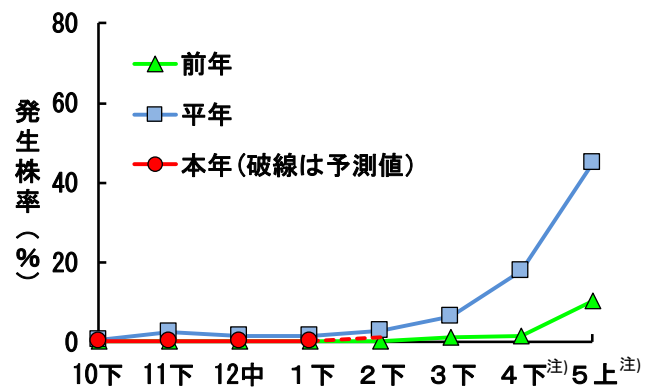


図1 ネギアザミウマのタマネギでの発生推移  
 注)4月下旬以降は、中・晩生品種を中心に調査

- (2) 2月の気象予報  
気温は低く、少発生の条件〈-〉

- 3) 防除上注意すべき事項  
(1) 春期の増加を防ぐため、低密度時に防除を実施する。



巡回調査圃場の様子

## イチゴ（本圃）

農技防調査：11 圃場、防除員調査：4 圃場  
調査日：1月19日～23日

### 1. ハダニ類

- 1) 予報の内容  
発生量：平年よりやや多い（前年並）
- 2) 予報の根拠  
(1) 発生の現況  
① 定期調査（図1参照）  
発生株率：17.1%（平年9.5%、前年9.3%）  
発生圃場率：60.0%  
平年比：やや多〈±～+〉 前年比：やや多〈±～+〉
- 3) 防除上注意すべき事項  
(1) 圃場によりハダニ類の薬剤感受性が異なるため、防除効果を確認しながら、防除薬剤を選定する。  
(2) その他については特記事項を参照。

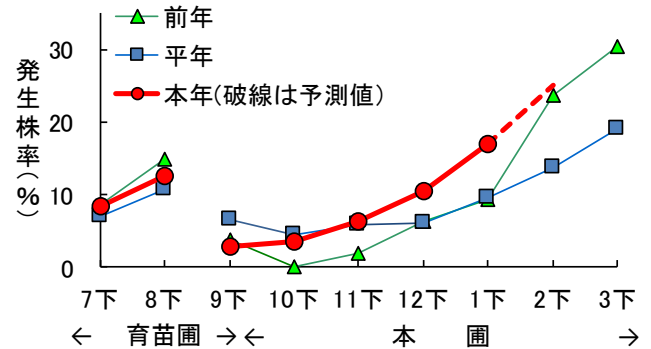


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

### 2. うどんこ病

- 1) 予報の内容  
発生量：平年よりやや少ない（前年並）
- 2) 予報の根拠  
(1) 発生の現況  
① 定期調査（図1参照）  
発生株率：1.1%（平年7.1%、前年1.7%）  
平年比：少〈-〉 前年比：並〈±〉
- (2) 2月の気象予報  
並発生の条件〈±〉

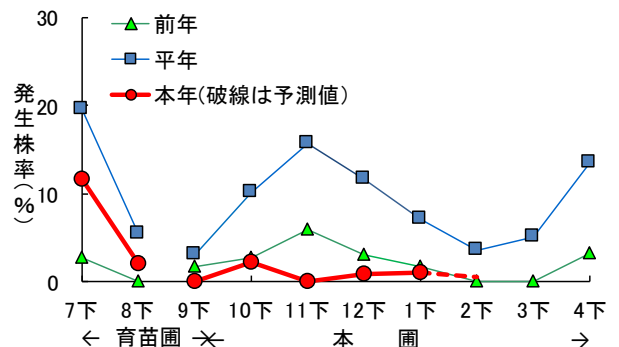


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

- 3) 防除上注意すべき事項  
(1) 春先の発生を防ぐため、発生圃場では約2週間間隔、発生のない圃場では1ヶ月間隔での薬剤防除と硫黄粒剤のくん煙処理を組み合わせる防除を行う。

### 3. アブラムシ類

- 1) 予報の内容  
発生量：平年よりやや多い（前年より少ない）
- 2) 予報の根拠  
(1) 発生の現況  
① 定期調査（図1参照）  
発生株率：0.3%（平年0.1%、前年0.3%）  
平年比：多〈+〉 前年比：並〈±〉

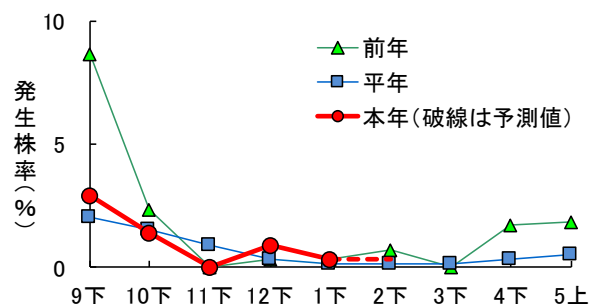


図1 アブラムシ類のイチゴでの発生推移



- 3) 防除上注意すべき事項  
 (1) 発生初期からの防除を徹底する。

## キュウリ

農技防調査：5圃場  
 調査日：1月19日～22日



巡回調査圃場の様子

### 1. アザミウマ類

- 1) 予報の内容  
 発生量：平年並（前年よりやや多い）
- 2) 予報の根拠  
 (1) 発生の現況  
 ①定期調査（図1参照）  
 発生株率：2.0%（平年1.2%、前年0%）  
 平年比：並（±） 前年比：やや多（±～+）
- 3) 防除上注意すべき事項  
 (1) 特記事項を参照。

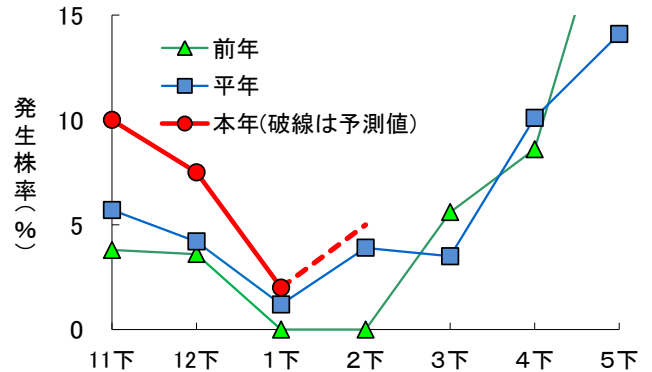


図1 アザミウマ類のキュウリでの発生推移

### 2. コナジラミ類

- 1) 予報の内容  
 発生量：平年並（前年並）
- 2) 予報の根拠  
 (1) 発生の現況  
 ①定期調査（図1参照）  
 発生株率：0%（平年0.5%、前年0%）  
 平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）
- 3) 防除上注意すべき事項  
 (1) 特記事項を参照。

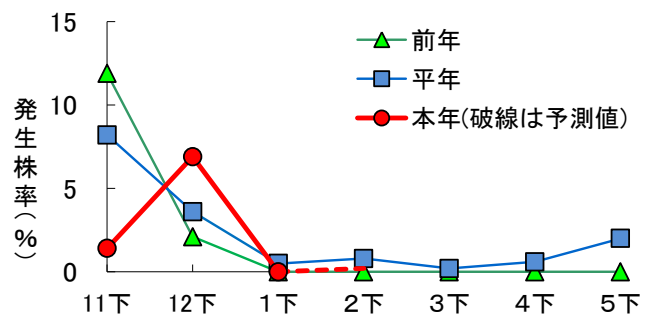


図1 コナジラミ類のキュウリでの発生推移

## トマト

農技防調査：8圃場、防除員調査6圃場  
 調査日：1月19日～23日



巡回調査圃場の様子

### 1. 葉かび病

- 1) 予報の内容  
 発生量：平年よりやや多い（前年並）
- 2) 予報の根拠  
 (1) 発生の現況  
 ①定期調査（図1参照）  
 発生株率：7.1%（平年2.7%、前年11.3%）  
 平年比：やや多（±～+） 前年比：やや少（-～±）
- (2) 2月の気象予報  
 並発生の条件（±）
- 3) 防除上注意すべき事項  
 (1) 発生がみられる圃場では、発病部位の早期除去とともに系統（FRACコード）の異なる薬剤（防除のてびき P479-482 参照）を組み合わせることで予防的な薬剤防除を実施する。  
 (2) 特記事項を参照。

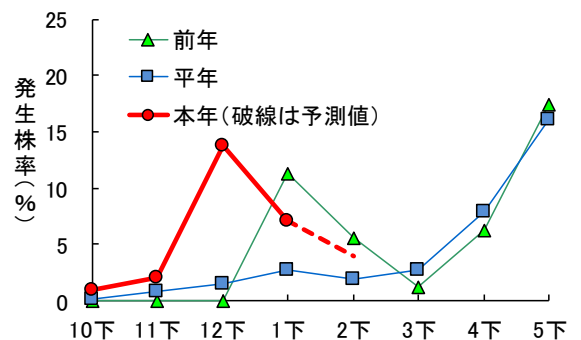


図1 葉かび病のトマトでの発生推移

## 2. 灰色かび病

### 1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや多い）

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況

##### ① 定期調査（図1参照）

発生株率：2.1%（平年2.4%、前年3.1%）

平年比：並（±） 前年比：並（±）

#### (2) 2月の気象予報

並発生の条件（±）

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生がみられる圃場では、発病部位の早期除去とともに系統（FRACコード）の異なる薬剤（防除のてびきP479-482参照）を組み合わせる予防的な薬剤防除を実施する。

(2) 特記事項を参照。

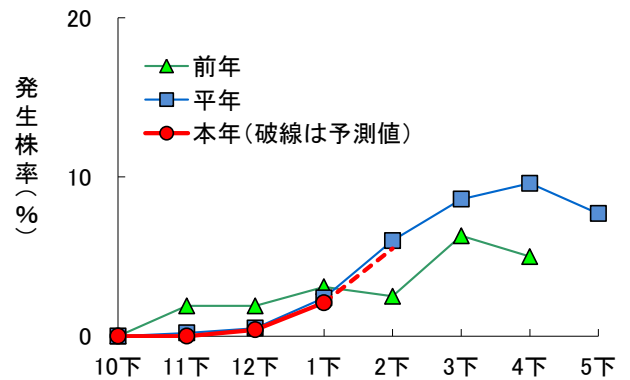


図1 灰色かび病のトマトでの発生推移

## 3. コナジラミ類

### 1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年よりやや少ない）

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況

##### ① 定期調査（図1参照）

発生株率：0%（平年1.3%、前年1.9%）

平年比：やや少（-〜±） 前年比：少（-）

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 黄化葉巻病を媒介するため、発病株は早急に抜き取り、防除を徹底する。

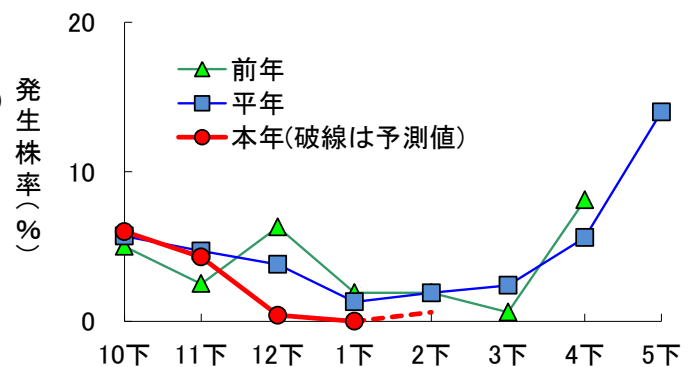


図1 コナジラミ類のトマトでの発生推移

## ナス（促成）

農技防調査：7圃場、防除員調査：6圃場  
調査日：1月19～23日



## 1. すずかび病

### 1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況

##### ① 定期調査（図1参照）

発生株率6.2%（平年12.1%、前年8.6%）

平年比：やや少（-〜±） 前年比：並（±）

#### (2) 2月の気象予報

並発生の条件（±）

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

(2) 初発生を確認後、直ちにダコニール1000（TPN水和剤）を散布し、約1週間後にベルコートフロアブル（イミノクタジンアルベシル酸塩水和剤）を散布する。これを約1ヶ月間隔で実施することで本病の発生を低く抑える。

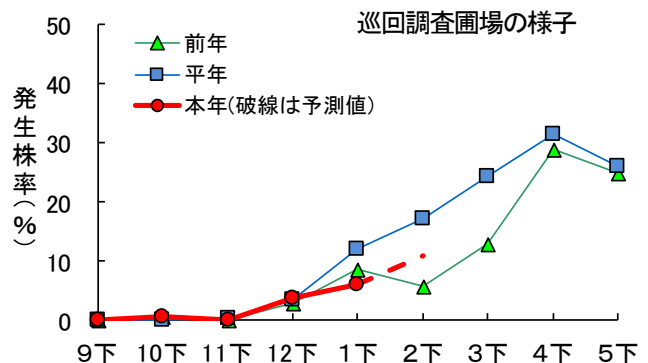


図1 ナスすずかび病の発生推移

巡回調査圃場の様子

## 2. 灰色かび病

### 1) 予報の内容

発生量：平年並（前年より多い）

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況

##### ① 定期調査（図1参照）

発生株率0.8%（平年0.2%、前年0%）

平年比：多〈+〉 前年比：多〈+〉

#### (2) 2月の気象予報

並発生の条件〈±〉

### 3) 防除上注意すべき事項

#### (1) 特記事項を参照。

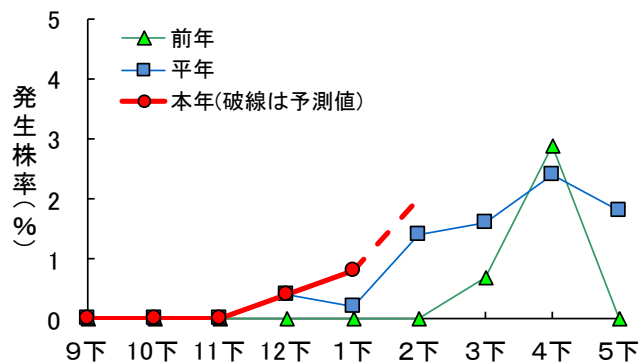


図1 ナス灰色かび病の発生推移

## 3. 菌核病

### 1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況

##### ① 定期調査（図1参照）

発生株率0.4%（平年0%、前年0%）

平年比：多〈+〉 前年比：多〈+〉

#### (2) 2月の気象予報

並発生の条件〈±〉

### 3) 防除上注意すべき事項

#### (1) 特記事項を参照。

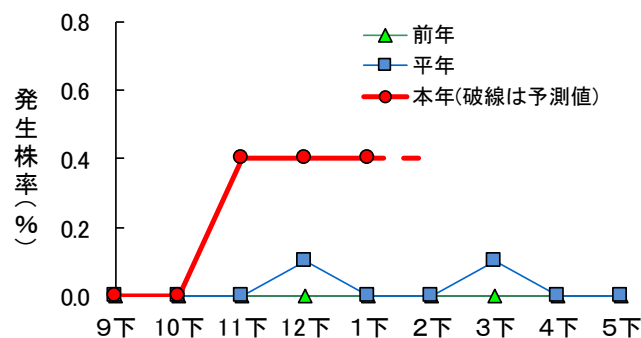


図1 ナス菌核病の発生推移

## 4. アザミウマ類

### 1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況

##### ① 定期調査（図1参照）

発生株率1.2%（平年13.3%、前年3.6%）

平年比：少〈-〉 前年比：並〈±〉

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。

(2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

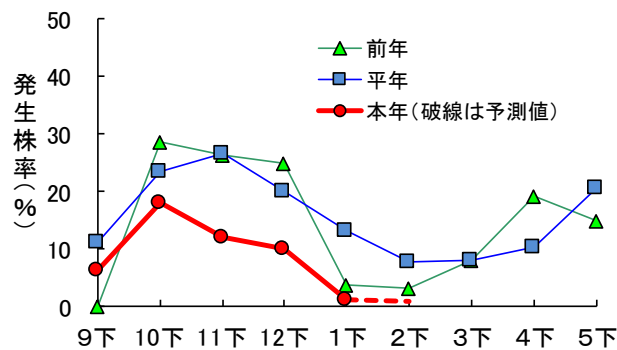


図1 アザミウマ類のナスでの発生推移

## 5. コナジラミ類

### 1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）



## 2) 予報の根拠

### (1) 発生の現況

#### ① 定期調査 (図1 参照)

発生株率 5.4% (平年 14.5%、前年 13.6%)

平年比: やや少 (<-~±) 前年比: やや少 (<-~±)

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

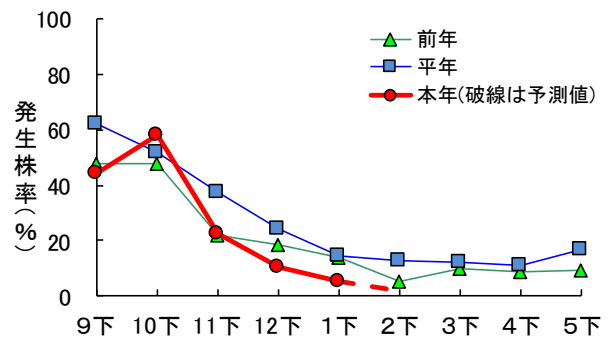


図1 コナジミ類のナスでの発生推移

# キク

農義技防調査 (8圃場)

調査日: 1月19~23日



巡回調査圃場の様子

## 1. 白さび病 (本文掲載)

### 1) 予報の内容

発生量: 平年並 (前年よりやや多い)

### 2) 予報の根拠

#### (1) 発生の現況

##### ① 定期調査 (図1 参照)

発生株率 0% (平年 0.7%、前年 0%)

平年比: 並 (<±) 前年比: 並 (<±)

#### (2) 2月の気象予報

並発生の条件 (<±)

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 施設内が多湿にならないように適宜換気を図る。
- (2) 薬剤は、葉裏や下位葉にも十分かかるように散布する。
- (3) その他については、特記事項を参照

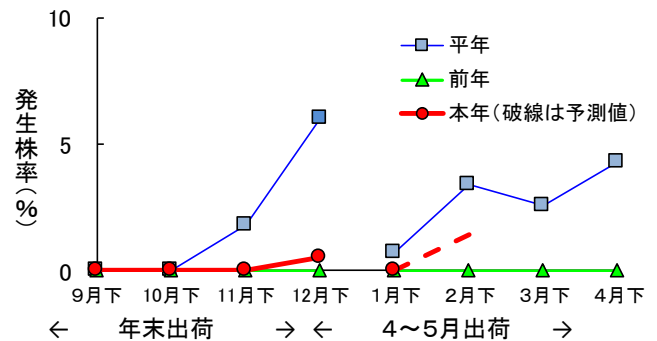


図1 キク白さび病の発生推移

連絡先: 佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部  
〒840-2205 佐賀市川副町南里 1088  
TEL (0952) 45-8153 FAX (0952) 45-5085  
Mail nougyougijutsu@pref.saga.lg.jp